



プレゼンテーション能力

帝京大学小学校 校長 石井卓之

6年生が卒業し、3月19日は各学年の修了式となります。この1年間で子どもたちには、どのような力が身に付いたのか、私なりに考えてみました。日常の学級の様子を見ていると、年度当初に比べると落ち着いて学びに向かうことができる子どもが増えていることは間違いないところです。学力はどうでしょうか。見える学力と言われるペーパーテストで測れる認知能力だけでなく、非認知能力も伸びていることを実感しています。特に、本校の授業に関わっていただいている多くの企業や公官庁等の方からだけでなく、オックスフォード大学や東北師範大学など海外から視察にみえた教育関係者の方も、子ども達のプレゼンテーション能力の高さを評価しています。これは、タブレット端末を文房具として活用することを基盤としながら、色々な授業の中で相手意識をもった発表を繰り返し行っている中で獲得したのだと考えています。

例えば、3年生の「里山プロジェクト」では、4月から一人一人が校内のぼんぼこ山、畑、竹林の調査から開始しました。各自何ができそうかというテーマを決めた後、企画会議を経て作品製作や秘密基地、遊び道具、里山紹介動画などを作り上げました。



2月には、卒業を控えた6年生を招待し、作り上げた秘密基地に招待したり作品のプレゼンテーション大会を行ったりしました。このように、同学年だけでなく異学年を対象に相手意識をもって発表するなどの活動を通して、プレゼンテーション能力が高まっていることを実感しています。

里山プロジェクト 6年生のレガシー

2022年度に始まった「里山プロジェクト」。今年で3年目を迎えました。6年生は卒業が近づく1月から毎年、下級生のために役立つ何かを残していこうという活動が続いています。初年度の2022年度はぼんぼこ山に入るための階段。2023年度は低学年が楽しめる「マウントスライダー」。そして2024年度は「シーソー」。この活動は6年生の話合いで製作する物が決まり、里山の専門家の塚原さんが支援をし、6年の探究担当教員、学年の教員がサポートしながら進んでいく活動です。今年度は、完成直前に雨天となり、校内で仕上げをしました。電動ドリルで穴を開ける作業のとき、予想以上にドリルが深く入ったために木材を突き抜けて床に穴が空きました。専門家がついていても失敗はあります。教員も外での活動では問題がないことが、室内での活動時には配慮しなければならないことがあると再認識できました。これも「失敗から学ぶ」の一つです。完成したシーソーで子どもたちが遊ぶ姿を見るのが楽しみです。

職員室の窓

校庭の桃の花が優しいピンクの花を咲かせています。構内にある樹木や草花が一斉に芽吹き、今年も春の訪れを感じる時期となりました。豊かな自然を形成している樹木の中には、旧公立小学校から引き継いだ樹齢20年以上になるものもあります。永年の風雨に耐えたその見事な樹形には見るものを圧倒させる力があり、畏怖を感じざるを得ません。残念なことに、昨年の造園業者の点検により、安全のため、この春休みに寿命が近い樹の伐採が決まりました。季節を彩ってきた大木も対象となるため、伐採後は、構内に新たな自然の姿が表れることと思います。在校生にとっては楽しい学びと遊びの場として、卒業生にとってはいつまでも温かく懐かしいホームとしてあり続けたいと思っています。



《副校長 澁谷恵美子》